

学術団体名：公益社団法人 日本水産学会
学術刊行物の名称：Fisheries Science
事業期間：平成26年度～平成30年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

世界を代表する水産国日本の総合学術雑誌 Fisheries Science（以下、本誌）について、その研究発信拠点としての役割を強化し、国際的存在感を高めることを目的とする。良質の論文と優れた総説を意欲的に掲載し、精選した総説をオープンアクセス化する。同時に、国際会議等において積極的に広報活動を展開し、海外研究者に対して本誌の認知度を上げる。その結果として、投稿数の増加、ジャーナルの品質向上、インパクトファクターの向上を目指す。これによって、本誌が国際的研究発信拠点として世界の持続的水産業の発展に資することを目標とする。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

1. **高品質情報の開拓・発信**：外国学会との共同国際シンポジウムを開催し、その招待講演者による総説を本誌に掲載する。また過去に発表された優れた和文総説を英文に改訂し、年間1～2報を出版する。
2. **閲覧自由度の向上**：上記の総説をオープンアクセス公開する。
3. **国際プロモーションの強化**：交流協定締結先の外国学会や国際シンポジウムでのブース展示を通して本誌の世界的認知度を高め、引用回数の増加と海外からの良質論文の投稿を促進する。また、本会の英文Webサイトを充実し、海外研究者のアクセスを促進する。
4. **海外エディターの増員**：地球規模の視点で水産業のあり方を議論することを念頭に、重要な水産国の海外研究者を本誌のEditorial boardに迎え入れ、新興国の多いアジア圏における水産系トップ誌としてのポジションをより強固なものとする。
5. **インパクトファクターの向上**：上記1～4の試みの成果指標のひとつとして、インパクトファクターの向上を目指す（例えば、5年間で1.2以上）。

・現在までの目標達成状況

1. **高品質情報の開拓・発信**：総説5編を掲載することができた（81巻1、2号；82巻2号）。
2. **閲覧自由度の向上**：これらの英文総説を全て以下のサイトでオープンアクセス化し、公開した。
<http://link.springer.com/journal/12562>
3. **国際プロモーションの強化**：計8箇所（米3回、英2回、カナダ1回、スペイン1回、韓国1回）の海外における学会等の機を捉え、本誌のブース展示を実施して本誌知名度の向上を図った。また、本誌の英文Webサイトを充実させた（<http://jsfs.jp/en/>）。改良は現在も継続中である。
4. **海外エディターの増員**：中国、フィリピン、タイ、欧州、北米、中米の研究者を本誌のエディターとして追加した（現在、海外エディター8名、日本人エディター31名）。
5. **インパクトファクター**：当初0.9前後であった値は、期待に反し、28年度は0.654に下がった。

・今後の計画

さまざまな改善と努力を払ったにも関わらず、逆にインパクトファクターが低下したことの原因には、競合相手として海外商業誌の勃興、掲載料、審査期間等、様々な理由が考えられる。しかし本誌は、水産関連の幅広い分野を網羅した良質の研究が掲載されている点については、海外でも高い評価を得ている。そこで今後は、さらなる審査の迅速化、オープンアクセス化を進め、掲載料低減の検討も行って国際競争力を高めることに力を注ぐ。また、アジアの水産研究者に誌上、学会等を通じてさまざまな情報交換の場を提供する一方で、国内若手研究者の育成を進めるなど、きめ細かいサービスに心がける。

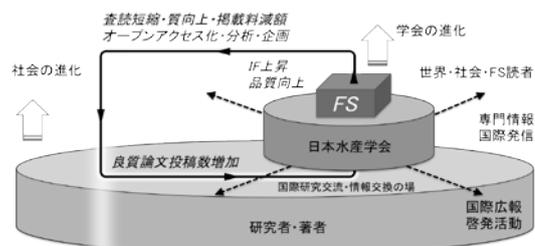


図2 国際情報発信強化のための改善策と社会・学会進化の好循環

さまざまな改善と努力を払ったにも関わらず、逆にインパクトファクターが低下したことの原因には、競合相手として海外商業誌の勃興、掲載料、審査期間等、様々な理由が考えられる。しかし本誌は、水産関連の幅広い分野を網羅した良質の研究が掲載されている点については、海外でも高い評価を得ている。そこで今後は、さらなる審査の迅速化、オープンアクセス化を進め、掲載料低減の検討も行って国際競争力を高めることに力を注ぐ。また、アジアの水産研究者に誌上、学会等を通じてさまざまな情報交換の場を提供する一方で、国内若手研究者の育成を進めるなど、きめ細かいサービスに心がける。